ドラム缶等による燃料の貯蔵及び取扱い

仮貯蔵・仮取扱い実施計画書（例１）

１ 目的

震災等により被災地においてガソリン等の燃料が不足した場合に災害復興支援車両等への燃料補給を行うことを目的とし、危険物施設以外の場所での一時的な貯蔵やドラム缶から手動ポンプ等を用いて金属携行缶への詰め替えを行い、仮設の燃料供給拠点として利用するために必要な事項を予め計画するものである。

２ 仮貯蔵・仮取扱いをする場所

　　○○市○○区○○町○○番○○号 ○○工場東側空地（コンクリート舗装）

３ 仮貯蔵・仮取扱に使用する部分の面積

　　約360 ㎡（15m×24m）

４ 詳細レイアウト

　　別紙のとおり

５ 仮貯蔵・仮取扱いをする危険物の類、品名、数量

　　第４類第１石油類（ガソリン）３，０００リットル

６ 指定数量の倍数

　　１５倍

７ 貯蔵及び取扱方法

⑴ ２００リットルの金属製容器（ドラム缶）にて貯蔵する。

⑵ 保有空地を６ｍ確保する。

⑶ 貯蔵場所と詰め替え場所に６ｍの離隔をとる。

⑷ 高温になることを避けるため通気性を確保した日除けを貯蔵場所に設置する。

また、取扱場所において、危険物が長時間炎天下にさらされないようにする。

⑸ 第五種消火設備 10 型粉末消火器 ３本を設置する。

⑹ 標識・掲示板を設置し関係者に次の事項について注意喚起を行う。

「危険物仮貯蔵・仮取扱所」、「品名・数量・倍数」、「火気厳禁」

８ 安全対策

⑴ ドラム本体、給油に使用するドラムポンプのアースを確保する。

⑵ 危険物の取扱いは、原則として危険物取扱者免状保有者が行う。

⑶ 危険物を取り扱う者は、静電安全靴を着用する。

９ 管理状況

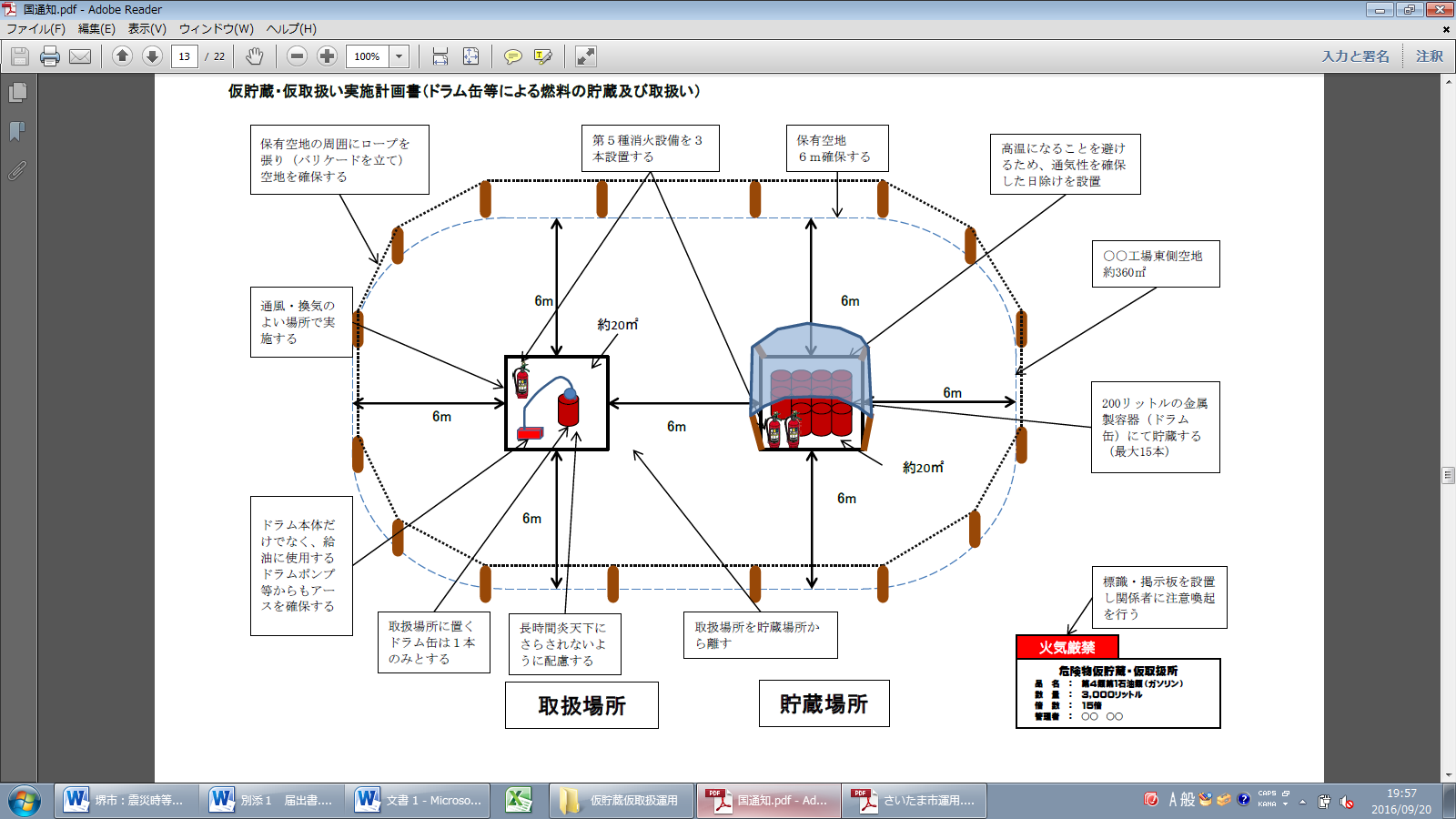
⑴ 保有空地の周囲にバリケードを立て、空地を確保する。

⑵ 敷地の出入り管理を徹底し、いたずら・盗難を防止する。

⑶ 作業前と作業後に点検を行い、その結果を記録する。

10 その他必要な事項

金属携行缶による給油は、この場所以外で行わない。



使用資機材リスト

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 資機材 | 数 |
| 平常時から用意しておく資機材 | 柵 |  |
| 標識・掲示板 |  |
| 流出拡散防止用シート（仮設防油堤） |  |
| オイルパン |  |
| 油吸着マット | ５０枚 |
| 日除けシート |  |
| アース | 1本 |
| ＡＢＣ消火器（１０型） | ３本 |
| 注油用ポンプ | １基 |
| 注油用ホース | １本 |
| 携行缶（２０Ｌ） | ５０個 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
| 震災時手配する資機材 | 燃料入りドラム缶（２００Ｌ） | １５本 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |